

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

令和6年度の全国調査の標準化得点：国語100以上、数学100以上

3.指標に向けての取組

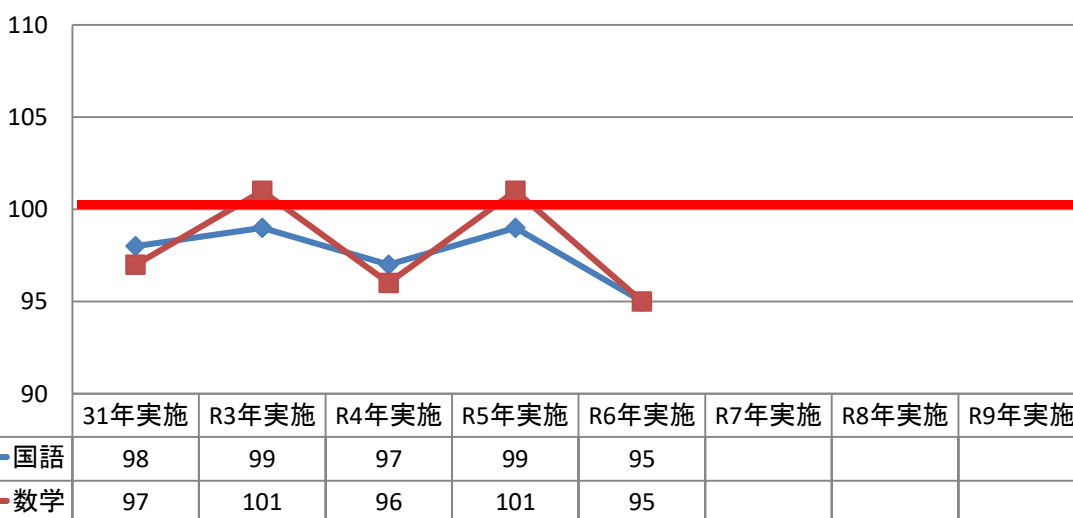
◎授業づくり、学力基盤づくりとして

- ◆ICTの利活用とめあてとそれに応じたまとめや振り返りの時間の設定
- ◆全教科、領域で自分の考えを説明したり、話し合いにより考えを広めたりする対話とかく活動の設定。
- ◆KST(Kahochu Step up Time)、HR学習、特定の学力層に応じた放課後補充学習の実施
- ◆学習専門委員会主体による学習コンクールの実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	95	95
嘉麻市	95	95
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

◎学力向上プラン、各学力層の割合と分析

◆各教科の四分位相福岡県との比較

	国語:A層	B層	C層	D層	数学:A層	B層	C層	D層
R5年度県調査	-11.0	-1.9	2.0	10.9	-14.4	-6.9	5.2	16.1
R6年度全国調査 (県100)	-14.5	-6.0	6.2	14.1	-11.1	-0.3	4.8	16.0

◆国語においては、特にA層とD層をはじめB層とC層の県との開きが、昨年度の県調査と比較して全国調査ではさらに拡大した。また、設問によっては、無解答率に顕著な差が見られる。

◆数学においては、B層において昨年度の県調査と比較して本年度の全国調査において差が改善し、さらにA層においても改善がみられた。また、D層において全く問題が解けていない生徒の割合が高い。

◆質問紙における特定の非認知能力①学ぶ意欲(夢や目標)、②自尊感情(自分にはよいところがある)、③規範意識(いじめの認識)④困難に立ち向かう(人が困っているとき助ける)の項目においては、R6において県平均以上。

6.各学校における今後の取組

◎結果を受けた今後の学力層に応じた取組について

◆国語の無解答率としては、思考力判断力表現力等の「話すこと・聞くこと」や「読むこと」について顕著な差異が見られた。「話すこと・聞くこと」については、授業の中に効果的に質問をする経験を積み、そのために「書く活動ポイント9」などを活用し意図的効果的な活動に取り組ませる。また、描写を基にとらえることに困難があるため、基本的な音読や読み取りについて取組を行う。これらの取組を少人数学習等で粘り強く継続して指導することで、すべての生徒が解答に挑めるよう進めていきたい。

◆数学の正答率が低い問題として、その事象を説明することがある。授業や宿題の中で説明問題に取り組む時間を増やしていく。また、各層における生徒に確実に学習内容を定着させる取組として、習熟度別授業を取り入れて個に応じた授業づくりを進めていく。

◆学ぶ意欲につながる将来の夢や目標をしっかりと定めている生徒が多いため、具体的な進学先や職業を見通して、そのために何が今必要なのかを意識させるキャリア教育を今後も継続して進めていく。

また、規範意識の醸成についても、自分の良いところを認め、周りからも認められるように、人との関わりを大切にする授業づくり関係づくりを今後も行っていく。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、学力検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。